



D&I道場 【ジェンダー】

1. 自己紹介とトピックとの関連性
2. 認知度調査結果を見て感じること

1.はじめに

2021年 全国ダイバーシティ調査

第2回 ダイバーシティ認知と理解に関する調査
= 多様性のある社会づくりのための**基礎調査**

実施者：NPO法人GEWEL

調査協力：桜美林大学ビジネスマネジメント学群

ビジネス演習12名の学生

■目的

- ダイバーシティ関連用語の社会的認知度の変化を把握
- 多様性社会づくりに関連事項に対する、人々の思考や行動の傾向把握
- 調査結果を今後のD&I普及啓発事業に活かす

仮説（新たな問い）を導出し、対話・考察を深める機会に繋げる

調査A

インターネット調査会社のリサーチモニターを対象とした調査

調査対象：全国リサーチモニター 9,524名

※居住地分布は人口動態とほぼ同率

調査方法：オンラインアンケート

調査期間：2021年9月～10月

全国の一般市民の用語認知・理解の実態について明らかにすることを目的とする。

報告書は、調査Aの結果を中心にまとめる。

調査B

GEWELからの協力呼びかけによる調査

調査対象：GEWEL協力者 1,076名

※回答者は首都圏在住者が多数

調査方法：オンラインアンケート

調査期間：2021年9月～10月

回答の偏りは予想されるが、調査A（一般市民の回答傾向）と認知・理解の程度を比較するための参考データにすることを目的とする。

質問項目

Q1 用語認知

Q1-1 **ダイバーシティ**

Q1-2 **インクルージョン**

Q1-3 **DEI**

Q1-4 **SDGs**

Q1-5 アンコンシャス・バイアス

Q1-6 **LGBTQ**

Q1-7 パタハラ(パタニティ
ハラメント)

Q1-8 ジェンダー・ギャップ

Q1-9 マイノリティ

Q1-10 マジョリティ

Q2 考えや経験

Q2-1 **外国籍の友人**

Q2-2 **世代間コミュニケーション**

Q2-3 **障がい者との関わり**

Q2-4 **性的少数者カミングアウト**

Q2-5 **ダイバーシティ尊重教育**

Q2-6 生きづらさ実感

Q2-7 **偏見・差別への考え**

Q2-8 産休取得のためらい

Q2-9 **多様性重視か画一性重視か**

Q2-10 **私なりの取り組み**

Q3 自由記述

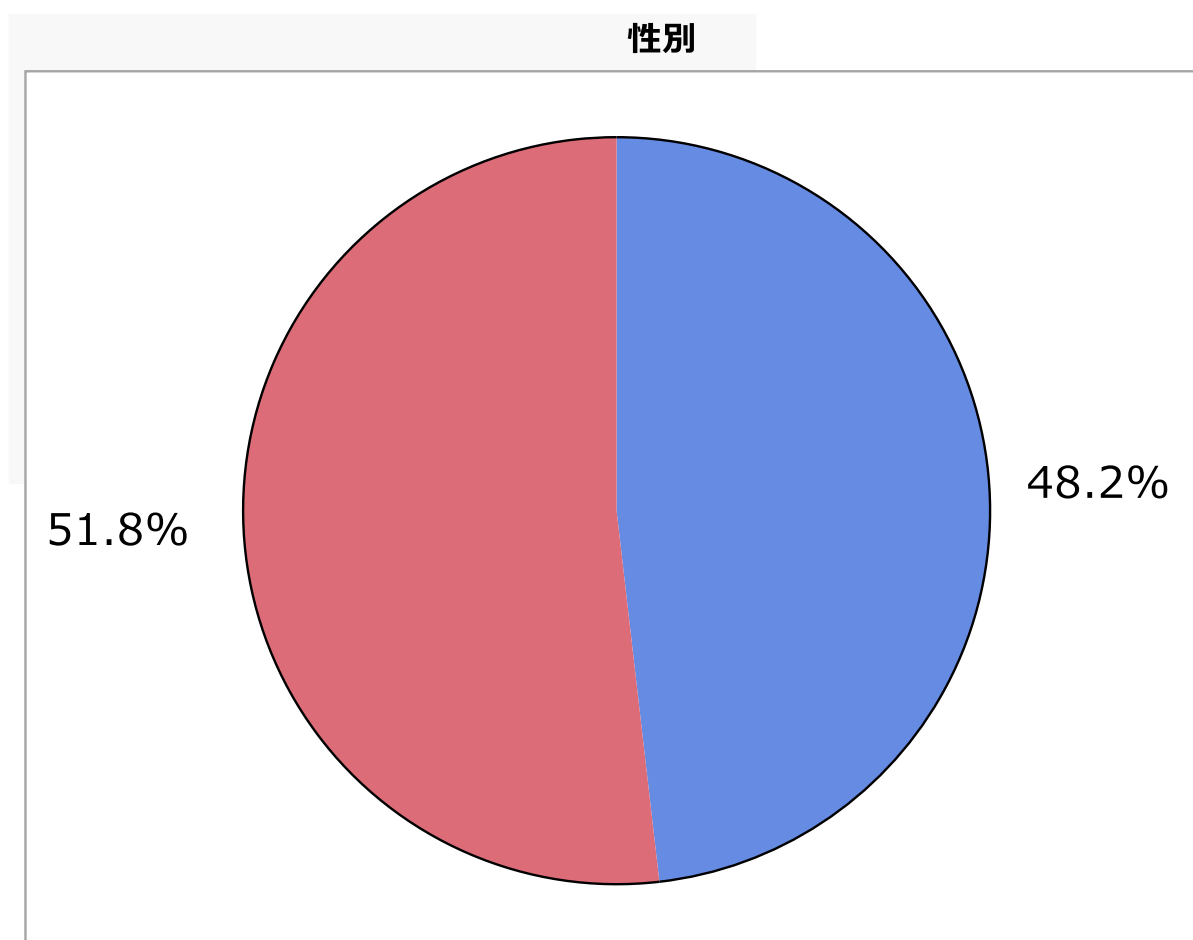
お互いの違いや個性を活かしよう社会
づくりの妨げになっているもの

**太字：2019年の
調査項目**

※ **一部修正項目**

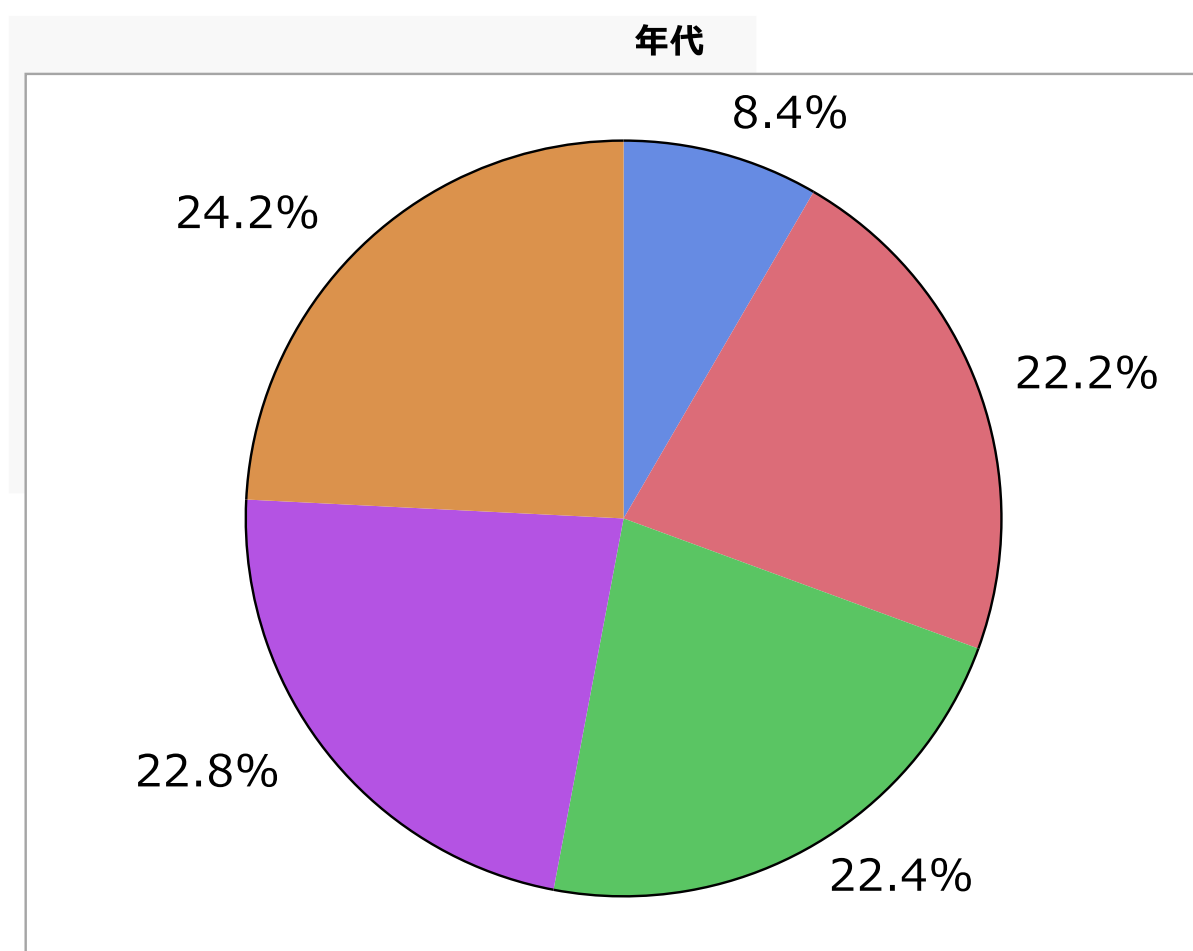
2. 回答者のプロフィール 【性別】

N=9,524



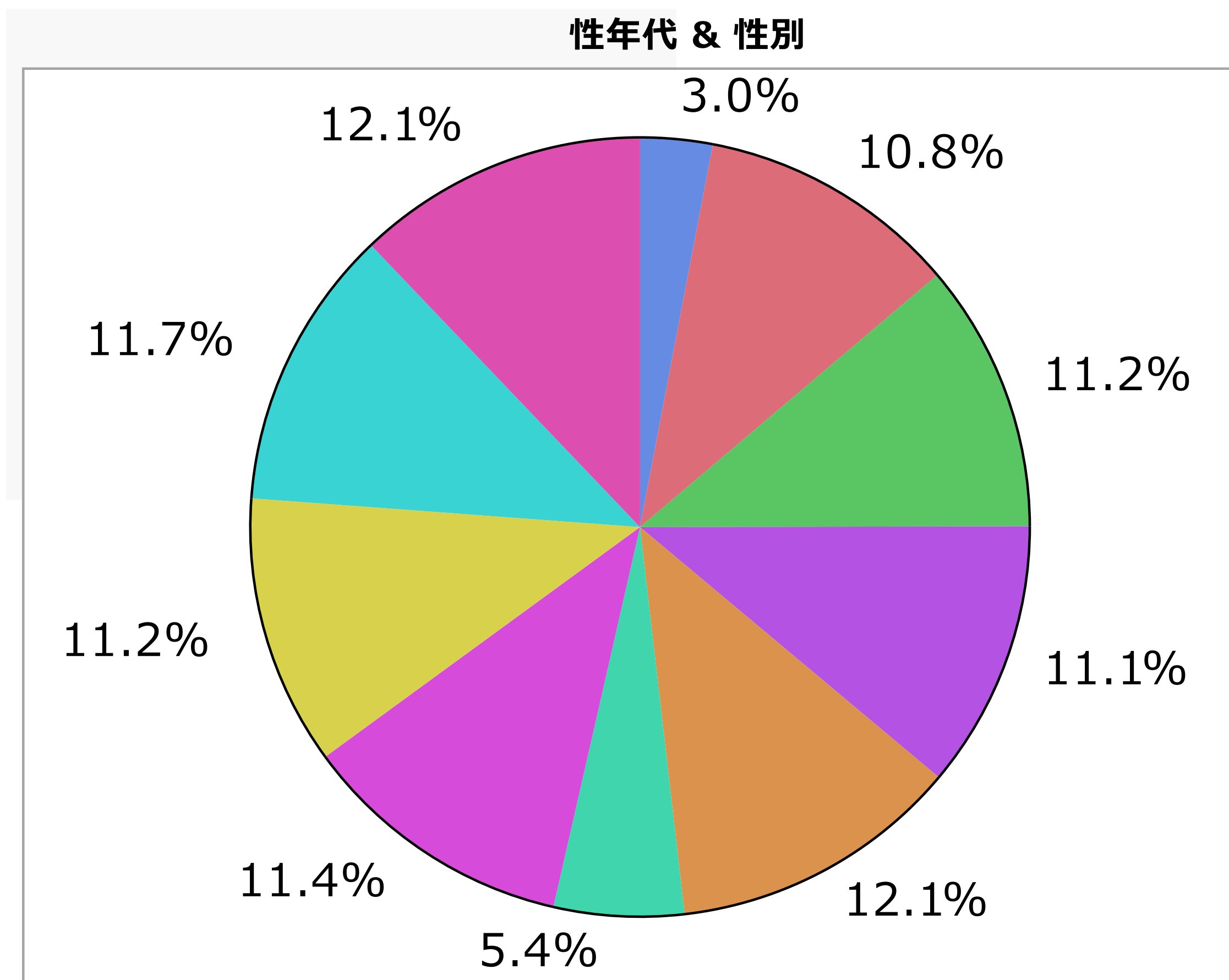
性別
■ 男性
■ 女性

【年代】



年代
■ 20代
■ 30代
■ 40代
■ 50代
■ 60代

【性年代】

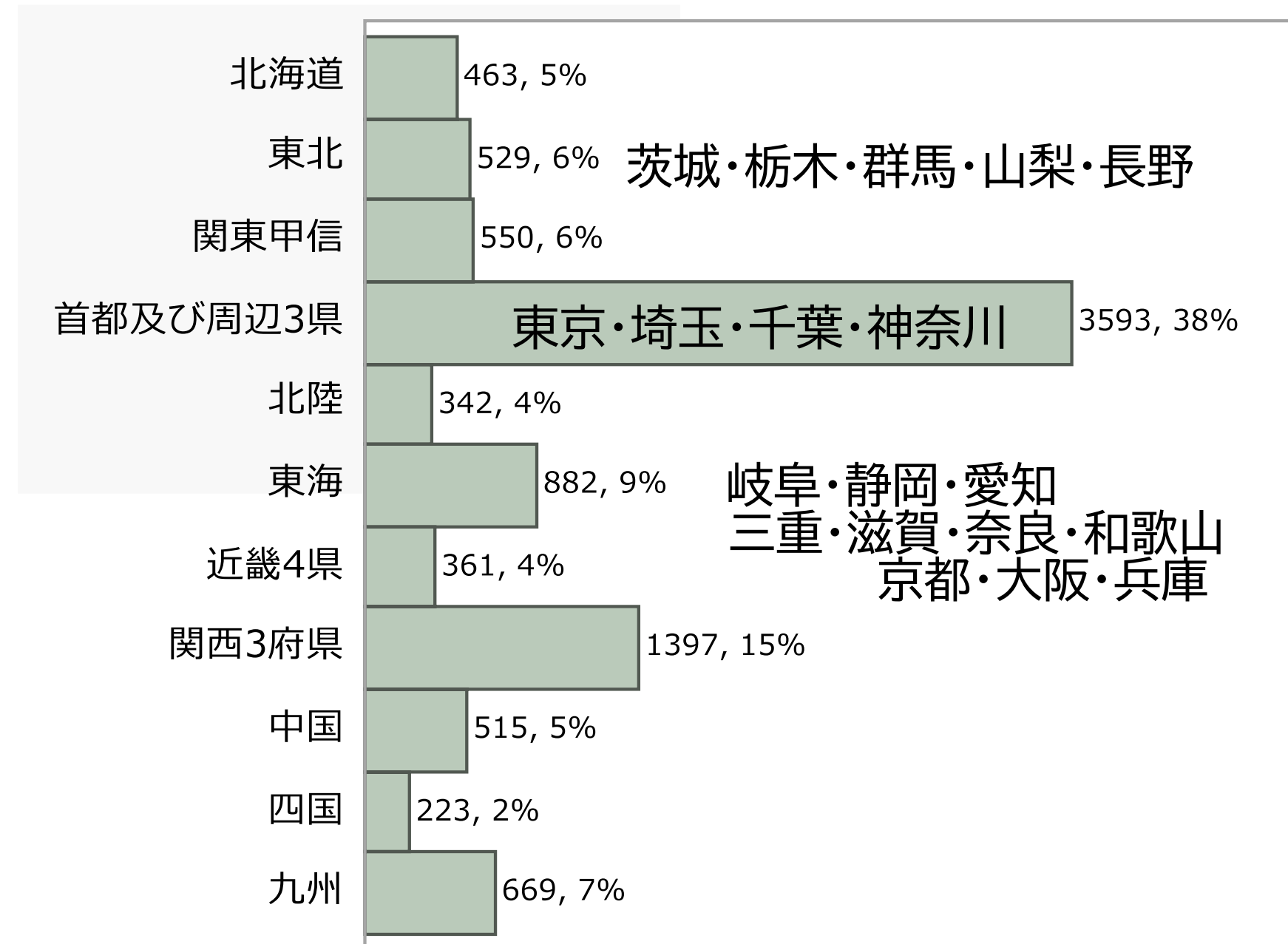
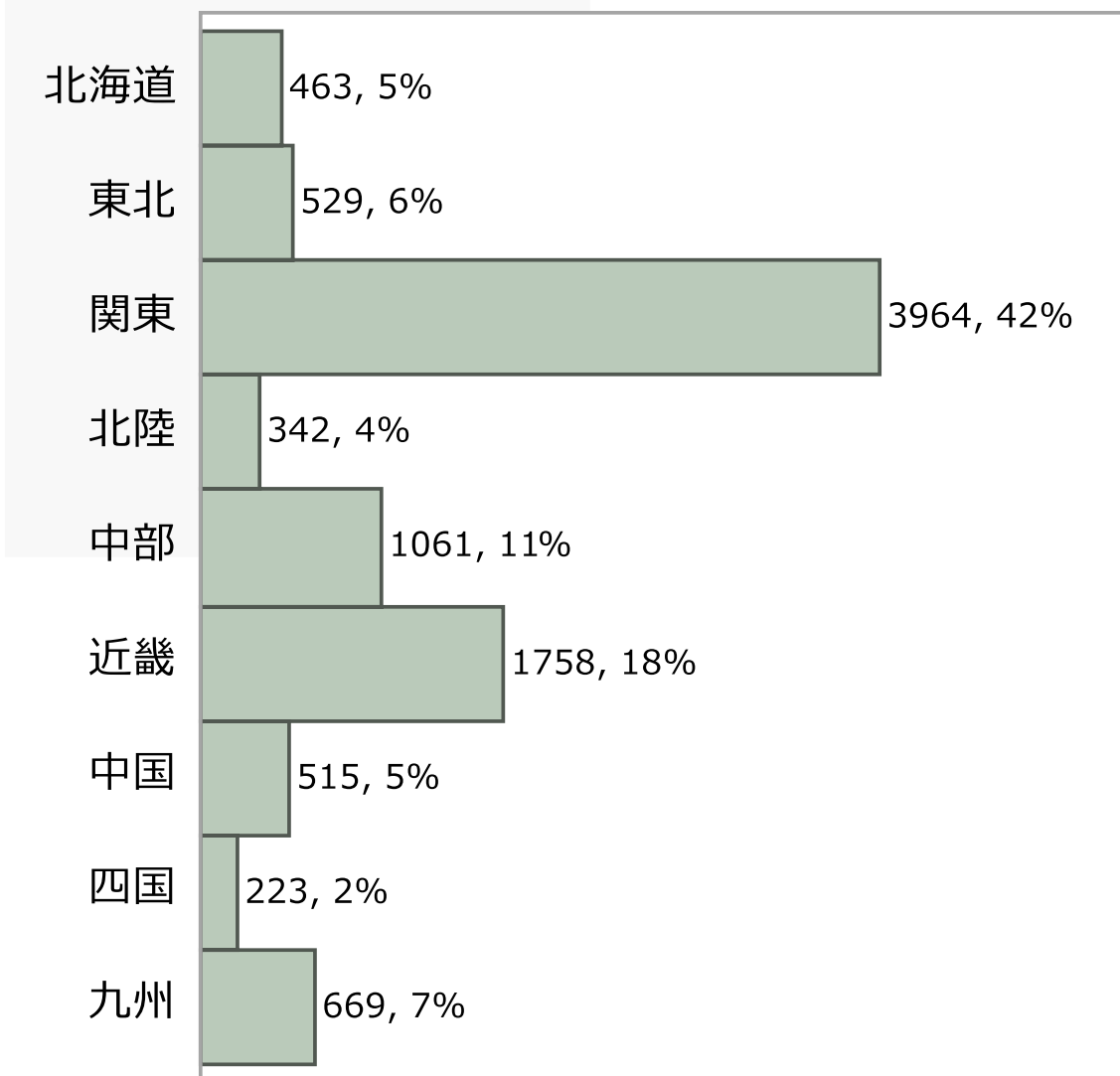


性年代>>性別

■ 男性20代>>男性
■ 男性30代>>男性
■ 男性40代>>男性
■ 男性50代>>男性
■ 男性60代>>男性
■ 女性20代>>女性
■ 女性30代>>女性
■ 女性40代>>女性
■ 女性50代>>女性
■ 女性60代>>女性

2. 回答者のプロフィール

【地域】



【学歴】

水準	度数	割合
大学院	576	6.0%
大学	4427	46.5%
短大・高専	1091	11.5%
専門学校	1050	11.0%
高校	2129	22.4%
その他	251	2.6%
合計	9524	100.0%

GEWEL ALL RIGHTS RESERVED.

【婚姻】

水準	度数	割合
未婚	3844	40.4%
既婚	5680	59.6%
合計	9524	100.0%

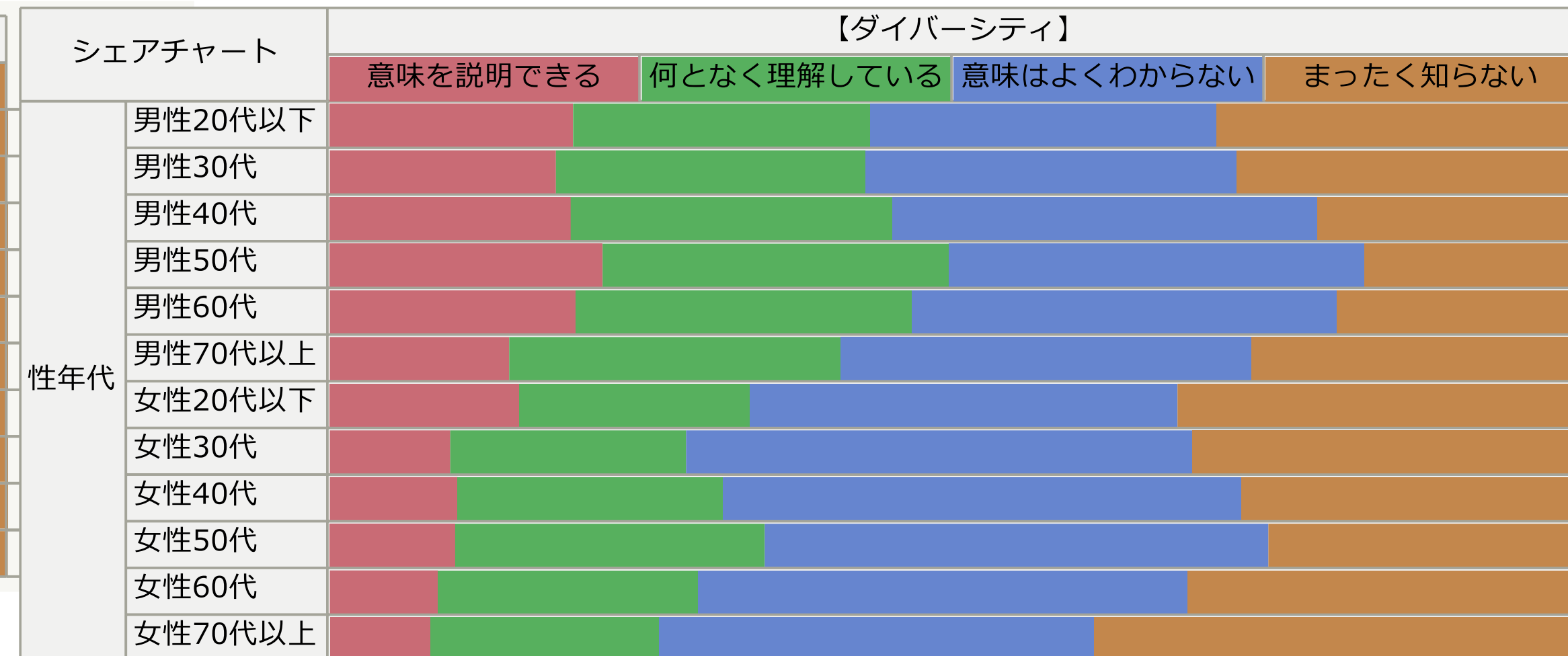
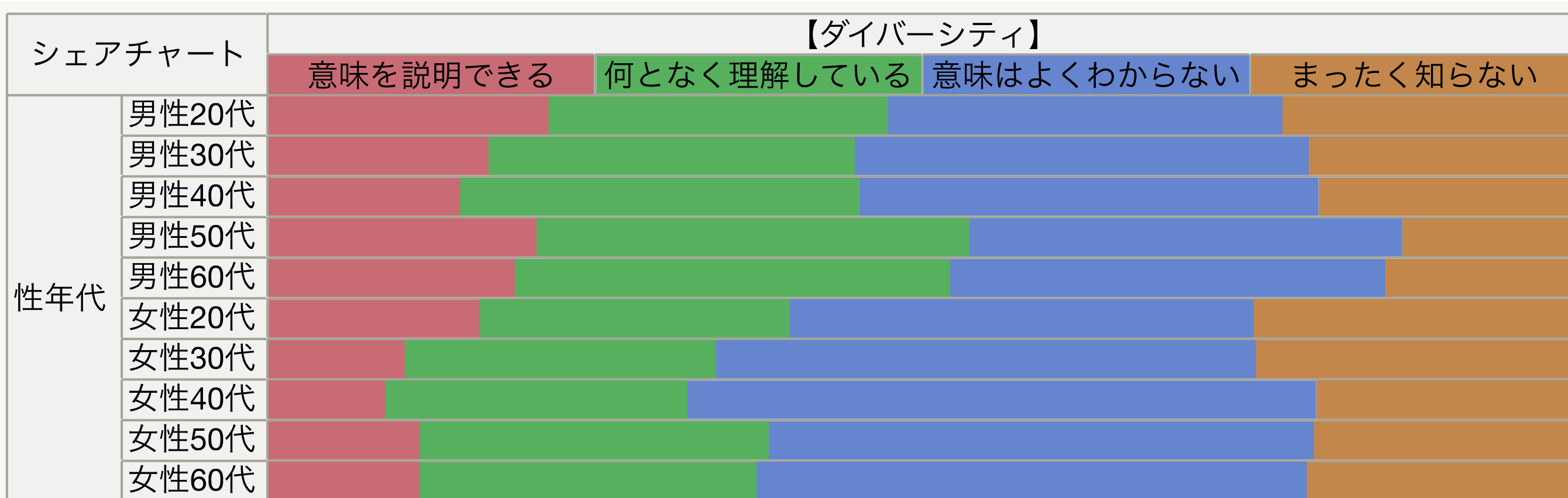
【職業】

水準	度数	割合
会社員・役員	3830	40.2%
自営業	574	6.0%
専門職	415	4.4%
公務員	415	4.4%
学生	132	1.4%
専業主婦・主夫	1565	16.4%
パート・アルバイト	1500	15.7%
無職・定年退職	936	9.8%
その他	157	1.6%
合計	9524	100.0%

ダイバーシティの認知度

2021年

2019年

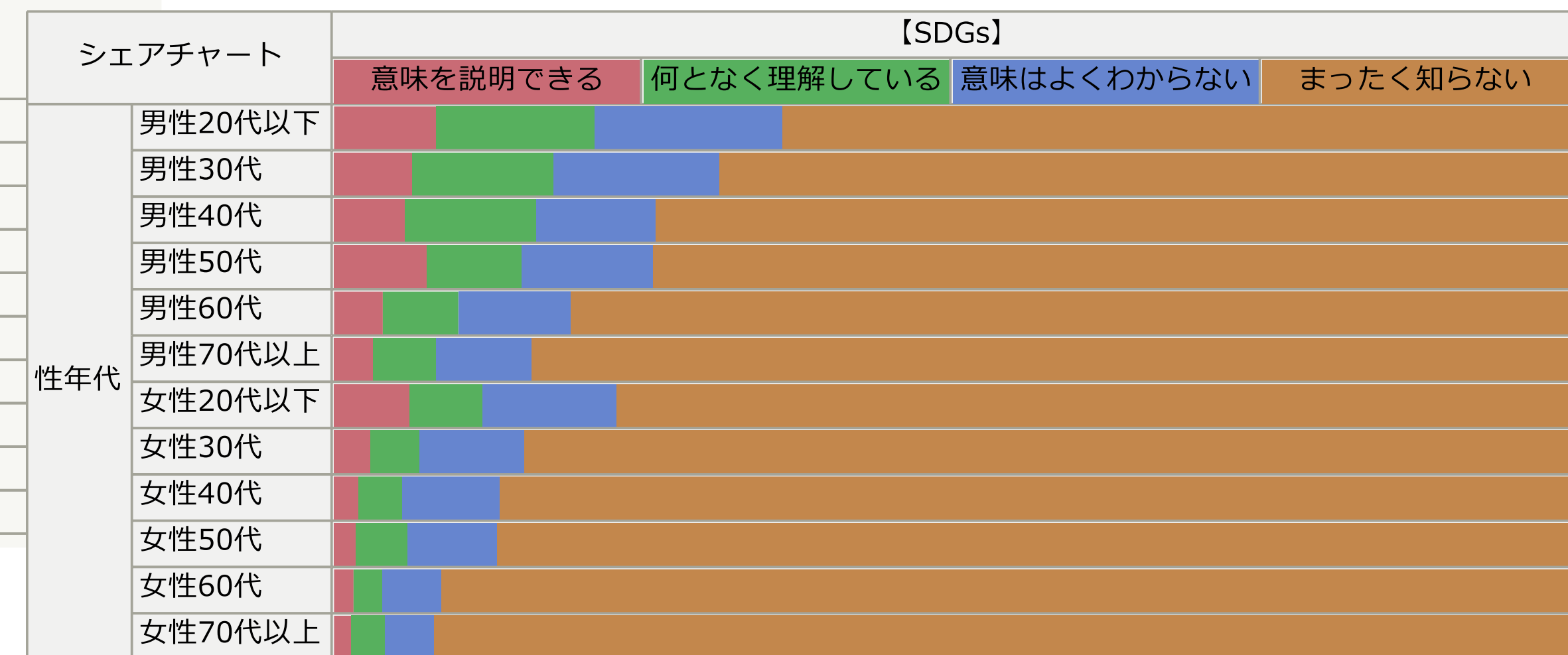
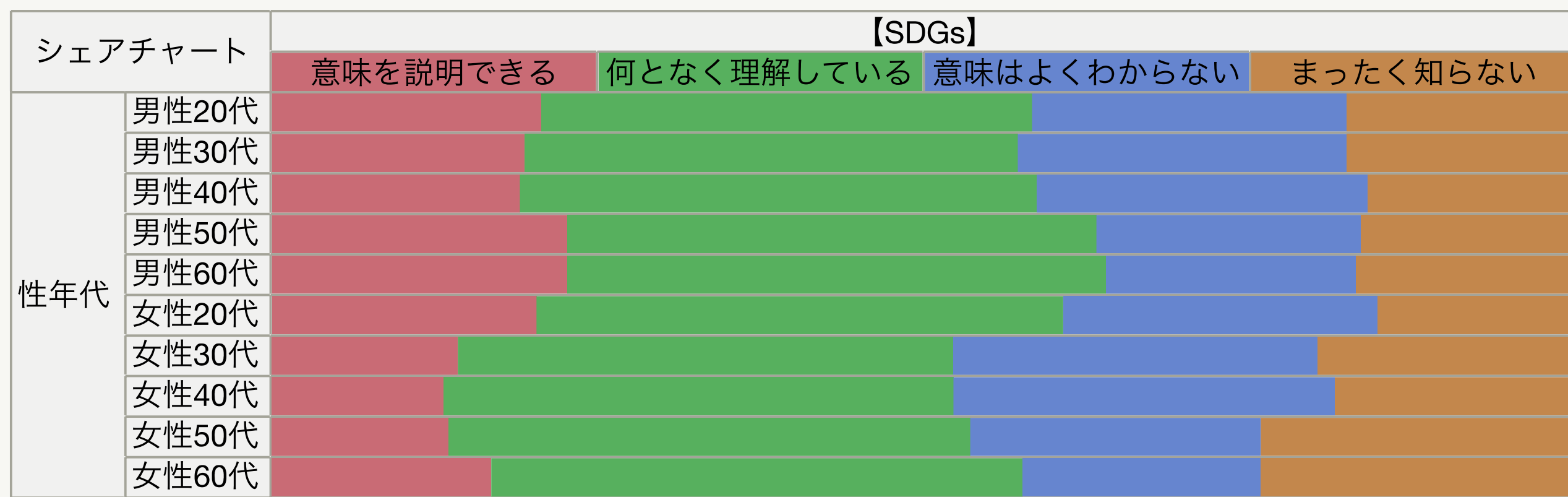


ダイバーシティの用語認知は男性より女性の方が全体的に低い
最も認知度の高い女性20代でも男性よりほぼ下回っている

SDGsの認知度

2021年

2019年

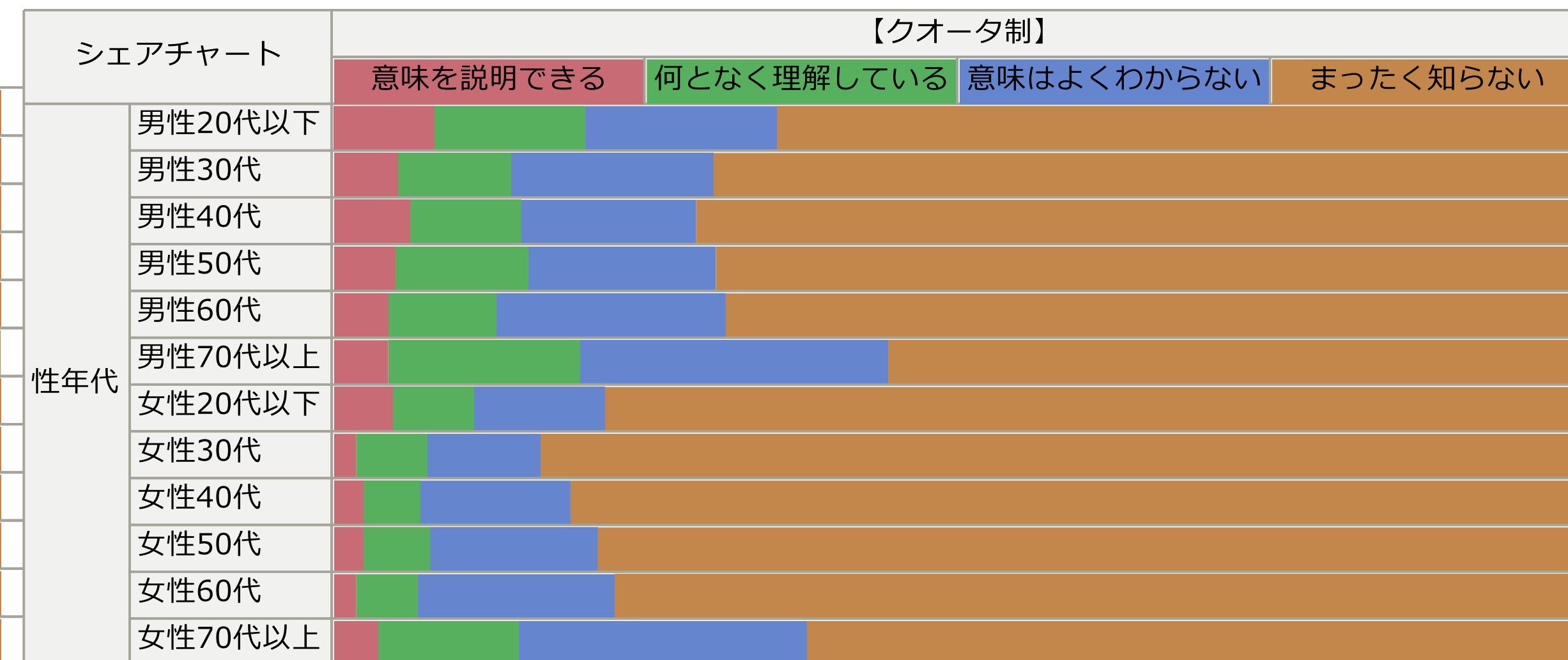
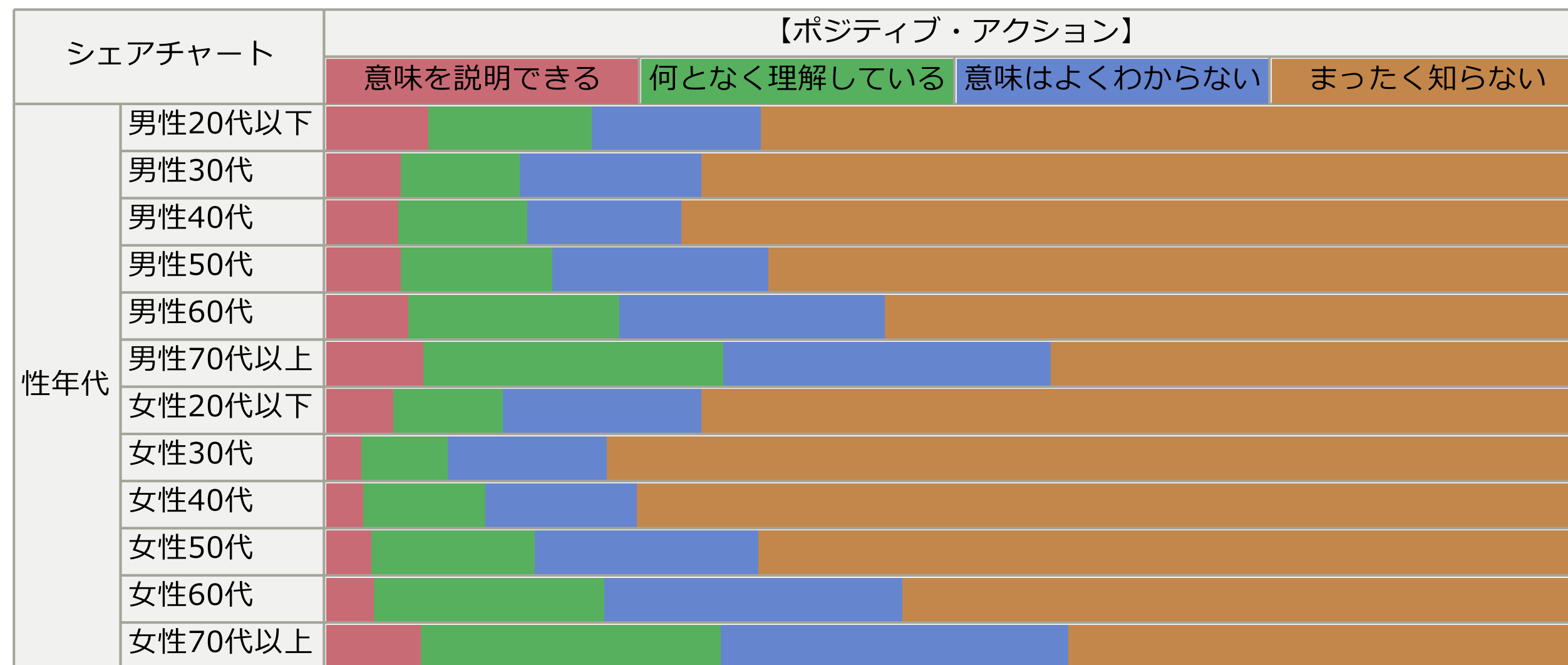


SDGsの認知度は2019年調査に比べて向上しているものの、女性30代・40代・50代では依然として低い

格差是正施策の認知度

ポジティブアクション(2019年)

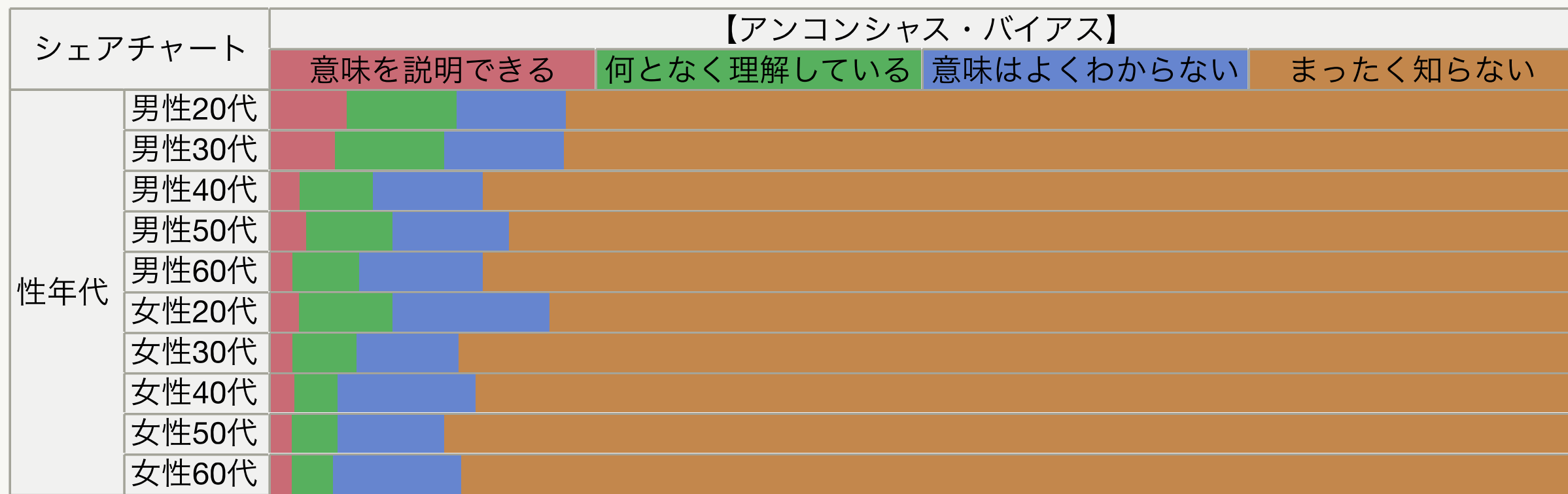
クオータ制(2019年)



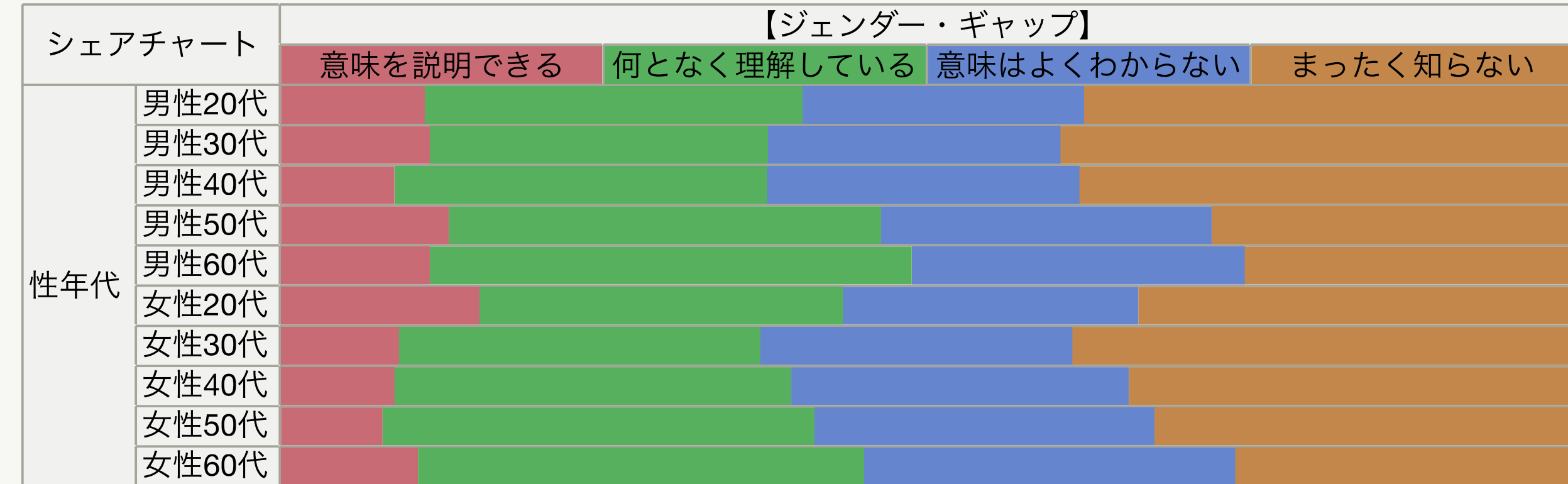
ポジティブアクションやクオータ制は男女とも認知度が低い
20代以下と70代以上でやや高くなっている

格差是正施策の認知度

アンコンシャスバイアス(2021年)



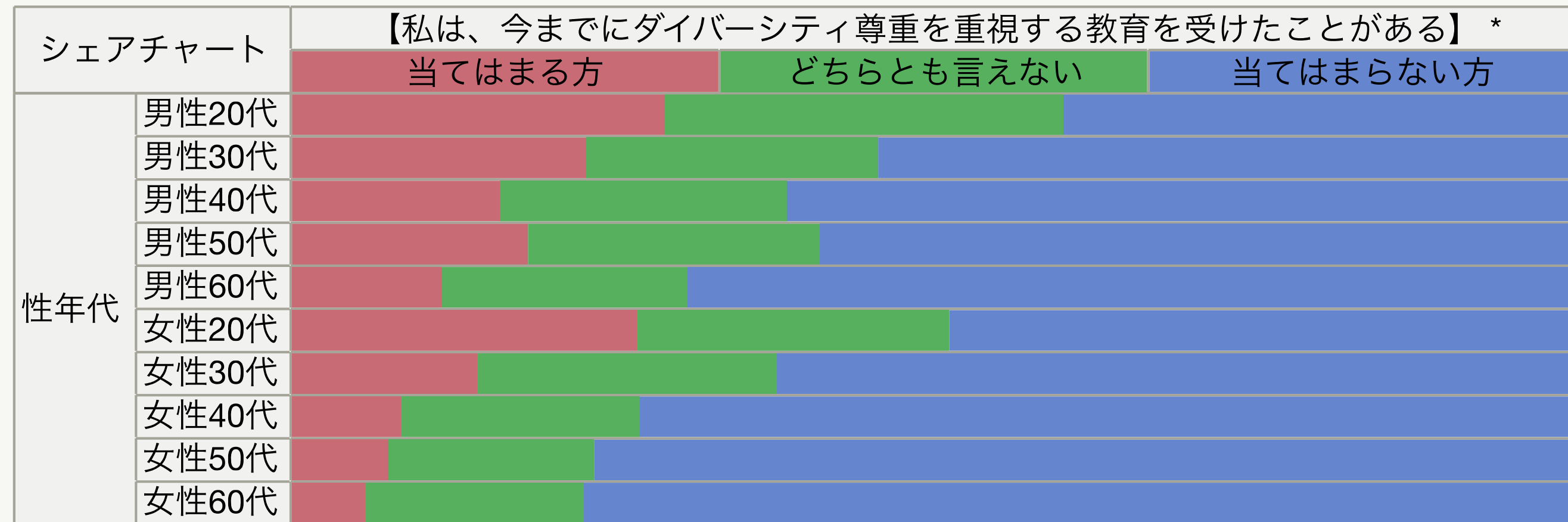
ジェンダーギャップ(2021年)



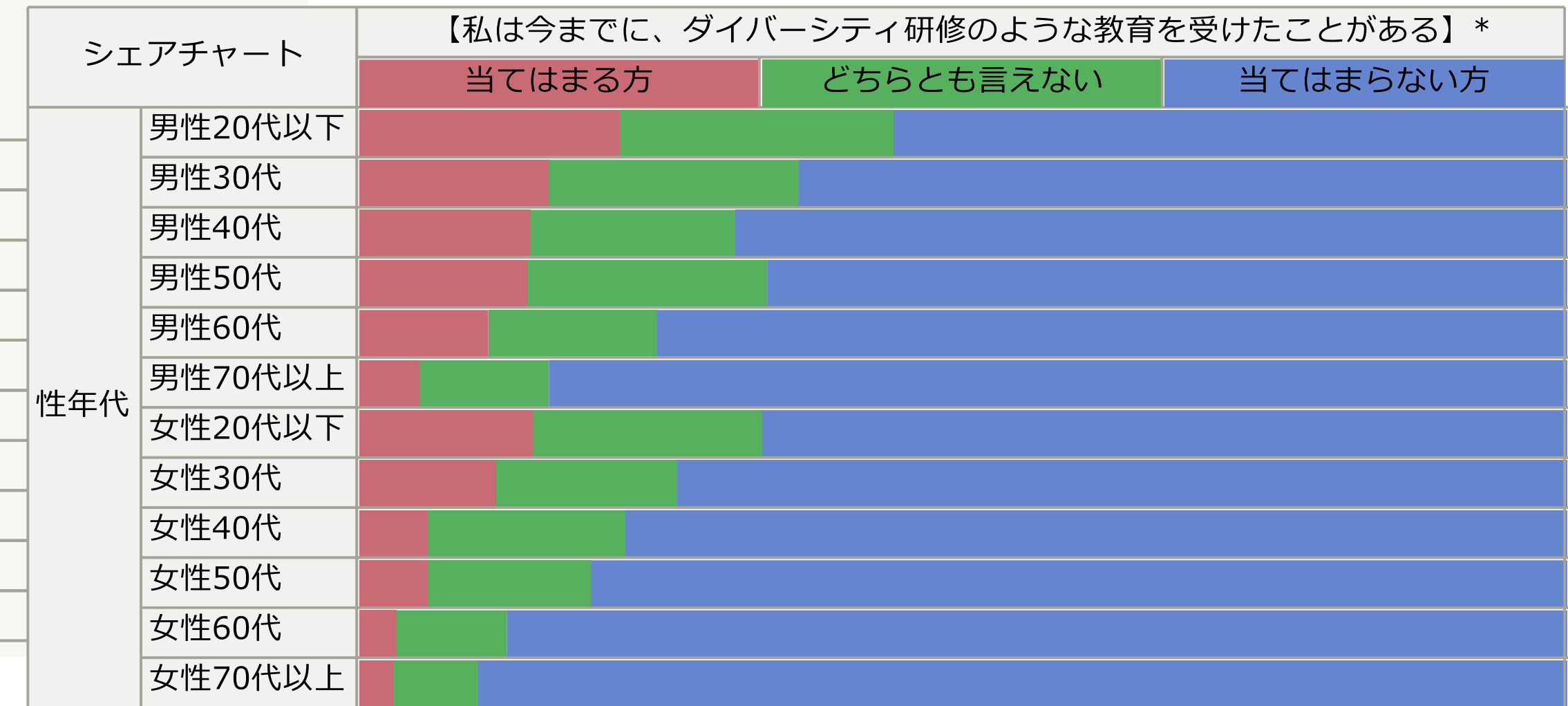
アンコンシャスバイアスの認知度は男女ともに非常に低い
ジェンダーギャップの認知度は20代以下と60代がやや高い

研修を受けた経験

2021年



2019年

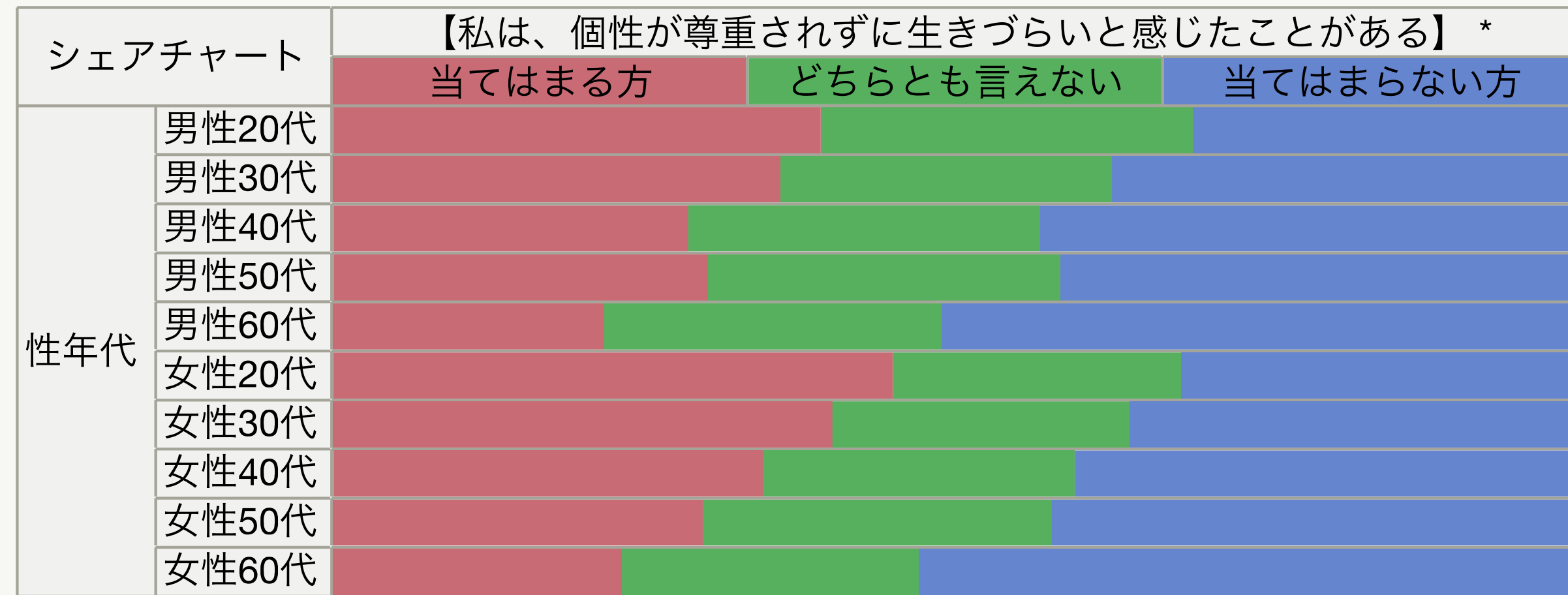


ダイバーシティに関する研修受講の経験は、2019年、2021年ともに男性の方が高い

個性の尊重

生きづらい経験(2021年)

個性が尊重されている(2019年)

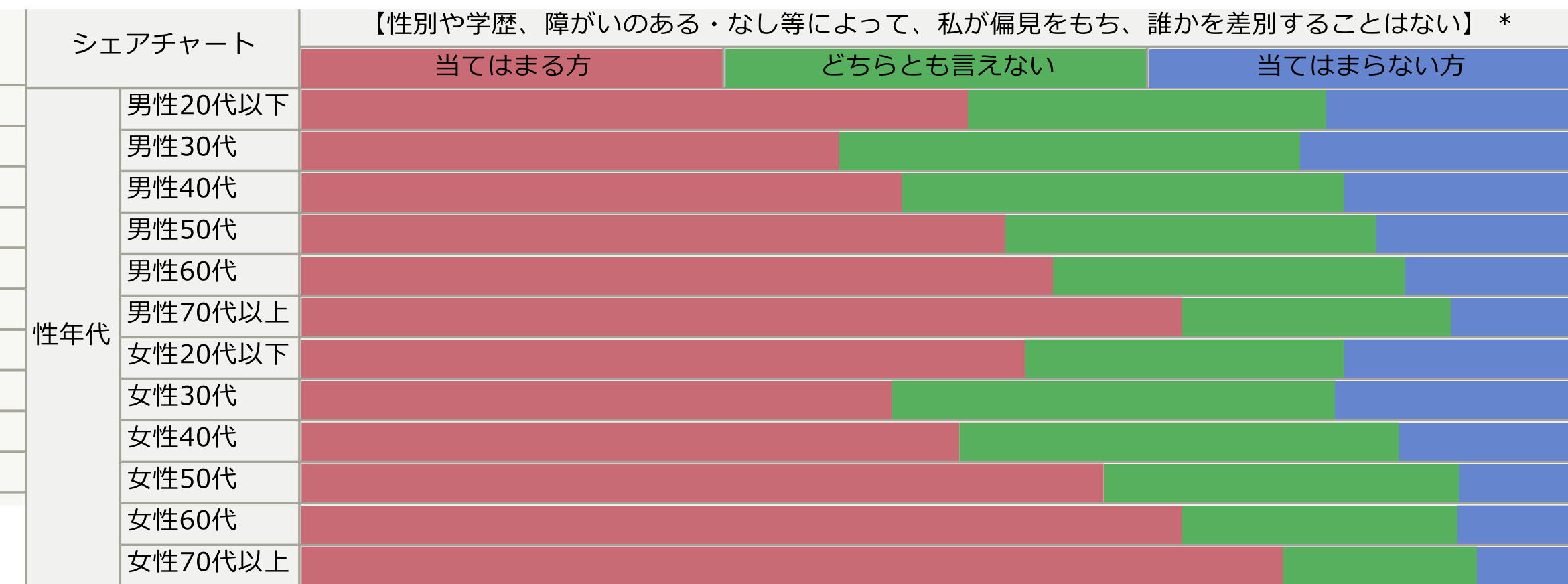
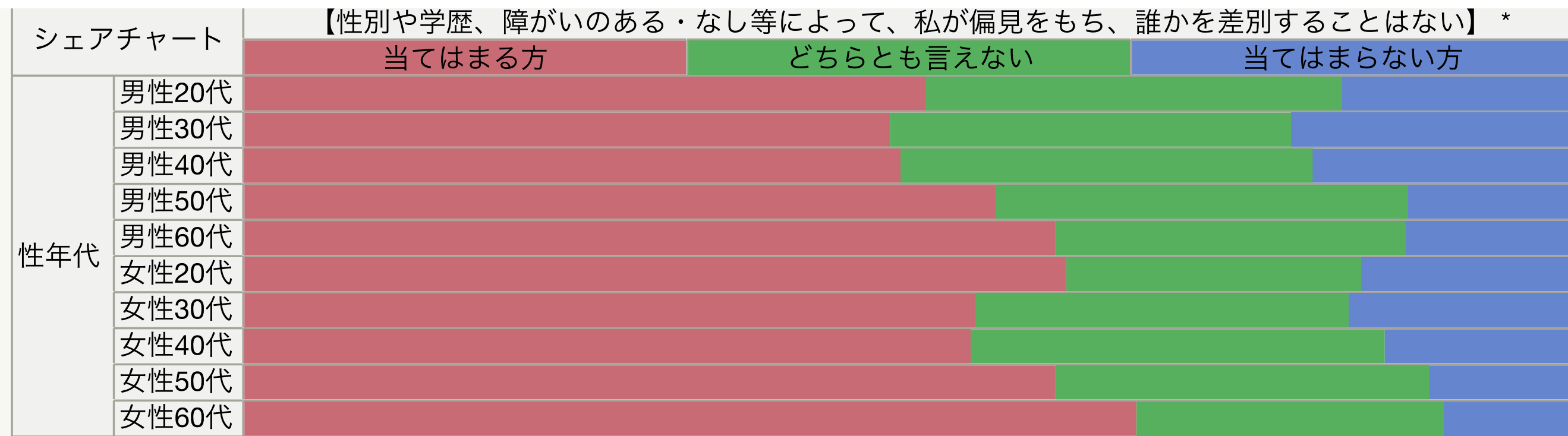


個性が尊重されず生きづらいと感じた経験は女性の方が男性より若干多い
個性が尊重されていると感じた経験は男女ほぼ変わらない

偏見や差別することの自認

偏見を持ち差別することはない(2021年)

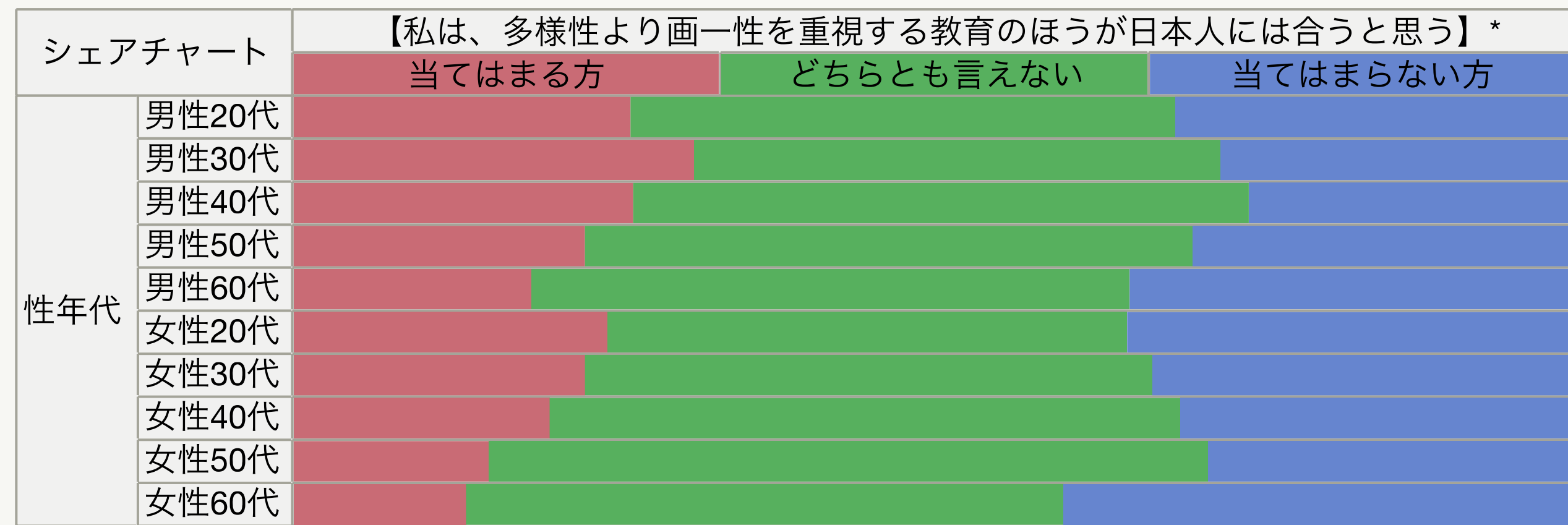
偏見を持ち差別することはない(2019年)



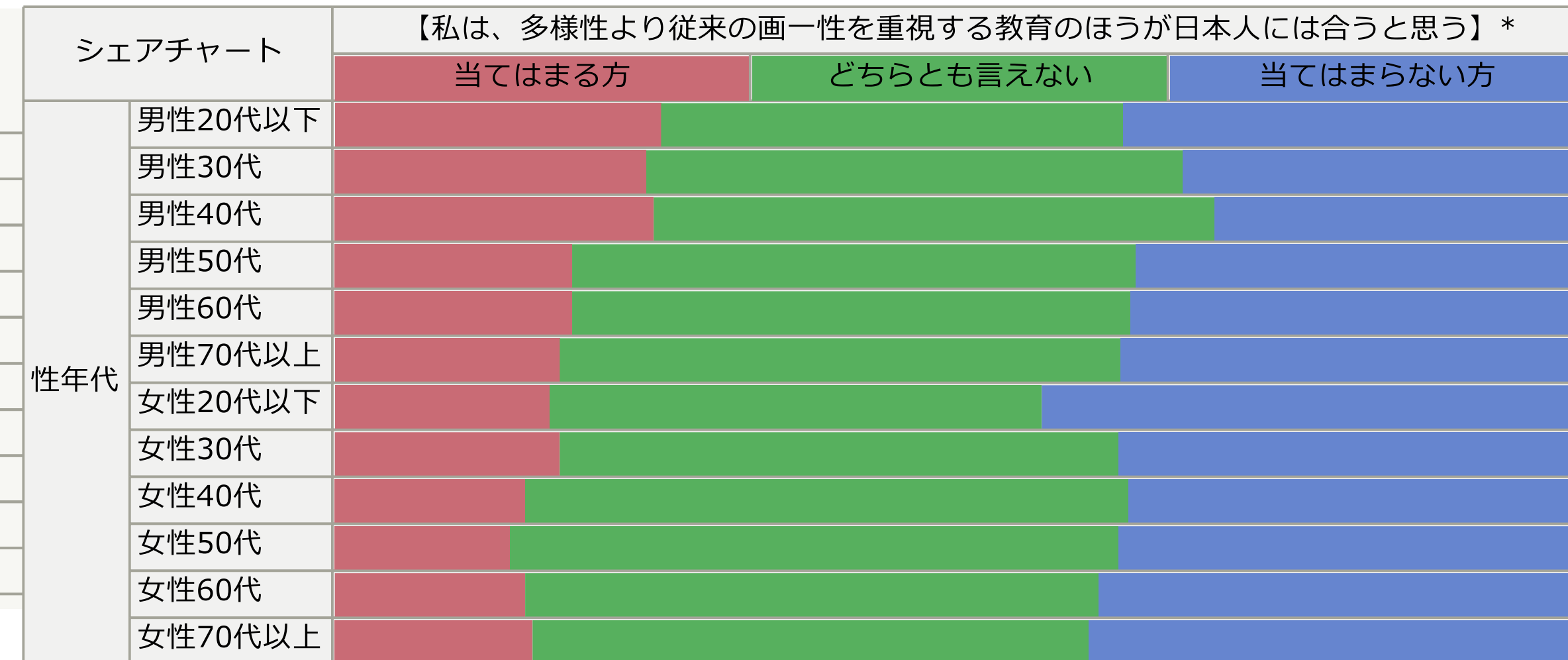
「性別や学歴、障がいのある・なし等によって、私が偏見をもち、誰かを差別することはない」と自認する人は男性より女性の方が多い

日本の教育

画一性重視の教育が合う(2021年)



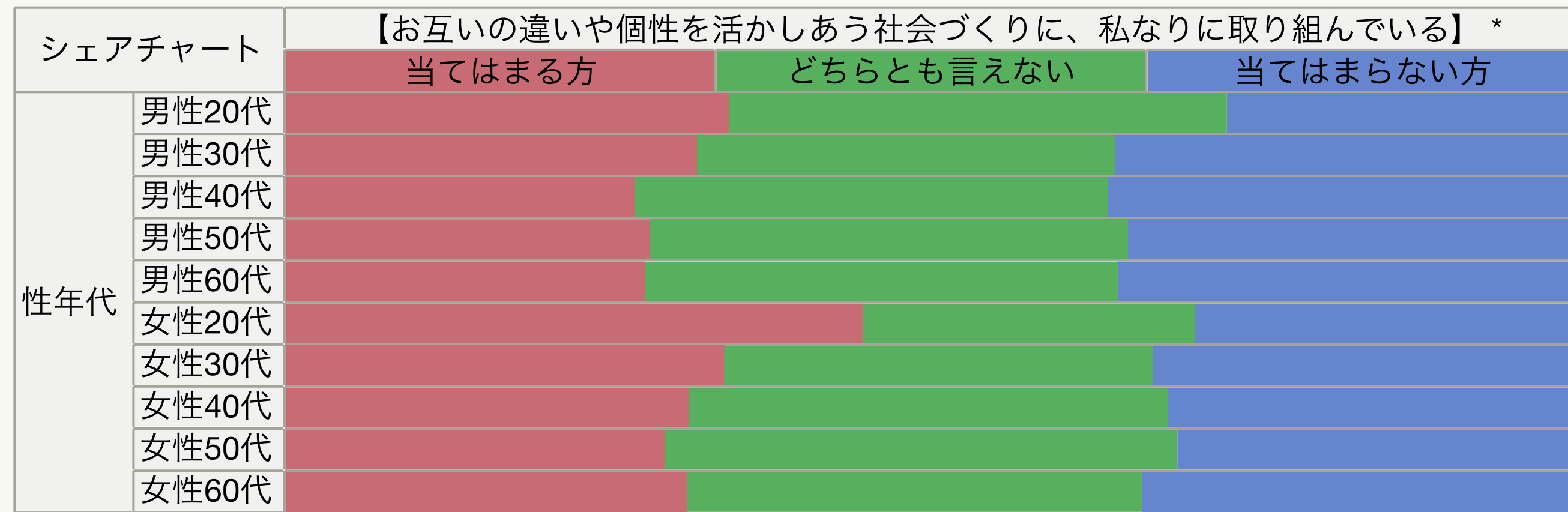
画一性重視の教育が合う(2019年)



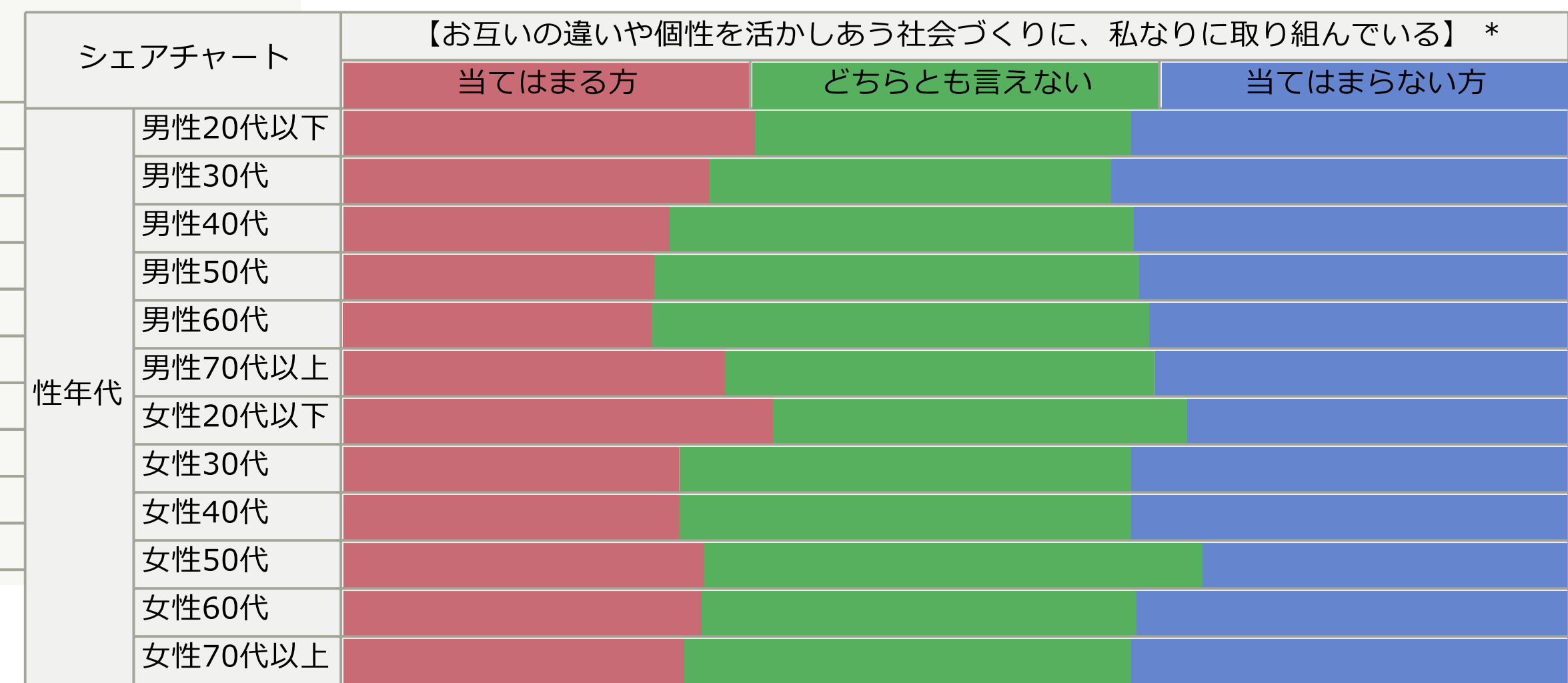
「多様性より従来の画一性を重視する教育のほうが日本人には合うと思う」と考える人は女性より男性の方が多い

自分なりの取り組み

私なりに取り組んでいる(2021年)



私なりに取り組んでいる(2019年)



「お互いの違いや個性を活かしあう社会づくりに、私なりに取り組んでいる」と考える人は20代女性で増加している

認知度調査によって見えるもの、見えないものは？

感想

V1